

地球温暖化及び廃棄物の問題に対応するため、物流・ロジスティクス部門としてどのようなことができるのでしょうか。  
ここでは、代表的な施策及び実施主体を示します。

図表 ロジスティクスにおいて実施すべき主な環境負荷低減施策

目的		主な施策	手 段		
			実 施	主 体	
		物流部門単独で実施できること		他部門／取引先等の他社との連携により実施すべきこと	
省エネ・CO <sub>2</sub> 削減	燃費・CO <sub>2</sub> 排出原単位改善	エコドライブの推進	・エコドライブの意識付け、ドライバー教育・実践 (P5 事例①) ・EMS機器*1等の利用 ・継続的活動に向けた工夫 (表彰・報奨等の実施等)	・無理な走行依頼の削減 (受注締め時間から生産、出荷に至るスケジュール遅延の削減等) ・入出荷に起因する待ち時間削減 ・入出荷バースの整備、待機所、待合室の設置等	
		ハード対応	・クリーンエネルギー自動車 (低公害車) 導入 ・燃費改善につながる機器導入 (エコタイヤ、導風板等) ・アイドリングストップに寄与する機器導入 (蓄熱ヒーター、蓄冷クーラー等)		
		モーダルシフトの推進	・鉄道コンテナ輸送枠の確保 ・輸送品質、リードタイム等の確保 ・輸送効率維持・向上に向けた対応策検討 (31ftコンテナ、背高コンテナ*2等の活用、積付方法見直し等)	・リードタイムの見直し (P6 事例③) ・帰り荷の確保	
	走行距離削減	拠点配置の見直し	・輸送距離等を考慮に入れた拠点配置の検討、見直し	・物流を加味した生産拠点配置の検討 ・共同化	
		輸送計画の見直し	・輸送計画 (輸送ルート含む) の適時見直しによる車両台数削減、適正車種選択	・共同化 (P6 事例④) ・リードタイムの見直し (P7 事例⑤) ・時間指定の見直し	
		輸送回数の削減	・物流部門起因の輸送ロス削減 (誤出荷、緊急出荷、配送ミス、持ち戻り返品*3、横持ちの削減等) ・車両大型化の検討 (P5 事例②)	・生産、販売部門/他社起因の輸送ロス削減 (受注締め時間の厳守、緊急出荷、生産遅延の削減、納品限度基準*4の見直し、拠点ごとの在庫バランスの最適化等) ・ロットの適正化	
	積載率向上	物流単位と発注単位の整合化	・物流単位*5の見直し	・物流単位の把握及び物流単位と整合性を持たせた販売/発注 (納品条件、受発注ロットの適正化等)	
		積載数増のための工夫	・多段積みの実施、段積治具の開発 ・包装資材の強度向上 <sup>注</sup>	・物流単位を考慮した商品設計 (P8 事例⑥)	
	資源循環・廃棄物削減	リデュース	包装資材の削減	・包装資材の薄肉化、軽量化の検討 <sup>注</sup> ・包装資材レスの検討 (通い箱、ハンガー輸送等の利用等)	・商品そのものの強度の確保 ・包装資材レスへの協力
			不動・不良在庫の削減	・生販バランスの最適化 (販売量に応じた出荷、需要予測の精度アップ等) ・在庫管理ミスの削減	・生販バランスの最適化 (販売量に応じた生産、部材調達等) ・(賞味期限等を考慮し) 段階ごとの消化策検討 ・商品改訂*6の適正化 ・返品の削減
リユース・リサイクル		回収品の再利用	・効率的な回収の実施 (P8 事例⑦) ・回収品質の向上	・回収を考慮した部材、材料選定及び商品設計 (回収・分解の容易性の確保等) ・設計、試作、生産での回収品・部材の再利用 ・回収への協力	

【凡 例】

- 主に輸送に関わる施策
- 主に包装に関わる施策
- その他の施策

※赤字項目はP5～8の事例に対応しております。

注 「強度向上」、「薄肉化、軽量化」を単独で実施するのではなく、最適なバランスを図ることが必要となります。

【用語解説】

- \*1 EMS機器  
エコドライブ管理機器(デジタコ、セーフティーレコーダー等)
- \*2 背高コンテナ  
通常の鉄道コンテナより縦寸法が長いコンテナのこと
- \*3 持ち戻り返品  
配送した商品をそのまま持ち戻ってしまう返品。要因としては、受発注、出荷、配送等のミス、時間指定遅れや納品限度基準\*4の違反等
- \*4 納品限度基準  
着荷主側が商品を受け取る際の最低基準。例えば、外箱のキズや加工食品での賞味期限等
- \*5 物流単位  
パレットへの商品積載数やケースの中の商品の入り数等
- \*6 商品改訂  
商品の切り替え(モデルチェンジ)のこと。商品改訂のタイミングと旧モデルの在庫(含む生産等)の連携が取れていないと、旧モデルの在庫が残り、その処理が環境負荷の増加につながる。